

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育総論 (2単位)		3. 科目番号	SSMP2454 SCMP2454 SBMP2454						
2. 授業担当教員	須藤 典征									
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係	肢体不自由教育の基礎科目であることから、履修することが望ましい。									
7. 講義概要	<p>近年、肢体不自由特別支援学校では重複障害や合併症を伴う児童・生徒が増える一方、知的障害を主たる対象とする特別支援学校や視覚障害や聴覚障害を専門とする特別支援学校、病弱特別支援学校においても、肢体不自由を合併する児童生徒が増えている。また、医療的ケアを必要とする重症心身障害児が学校に通ってくるケースも増加するなど、肢体不自由教育の教育課程編成はより一層複雑かつ創意工夫が必要になっている。さらに、インクルーシブ教育の理念の広がりにより、地域の小中学校に肢体不自由のある子どもが入学するケースも増加するなど、その必要性は、様々な場所に広がっている。</p> <p>このような現状をふまえながら、家庭・地域ならびに医療や福祉の関係機関と連携した教育的支援のあり方について、実際の講義を進めていきたい。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由教育についての概要を理解し、基礎から発展的に説明できるようになる。</li> <li>2. 肢体不自由教育の現状と課題について理解し、基礎から発展的に説明できるようになる。</li> <li>3. 肢体不自由教育の場、教育課程についての知識を、基礎から発展的に身に付ける。</li> <li>4. 日常生活における家族や医療機関等との連携の実際がわかる。</li> </ol>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	特別支援学校で行われる「医療的ケア」についてのレポート (1000～1200字)									
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】川間健之介・西川公司『肢体不自由児の教育』一般財団法人 放送大学教育振興会、2014。									
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由教育についての概要を理解し、基礎から発展的に説明できたか。</li> <li>2. 肢体不自由教育の現状と課題について理解し、基礎から発展的に説明できたか。</li> <li>3. 肢体不自由教育の場、教育課程についての知識が、基礎から発展的に身についたか。</li> <li>4. 日常生活における家族や医療機関との連携の実際がイメージできたか。</li> <li>5. 主体的な発言・取組をし、協調性を発揮して授業に参加できたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>以下を総合的に検討し、判断する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の50%</td> </tr> <tr> <td>2 レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table> <p>*なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>				1 授業への積極的参加	総合点の50%	2 レポート	総合点の20%	3 期末試験	総合点の30%
1 授業への積極的参加	総合点の50%									
2 レポート	総合点の20%									
3 期末試験	総合点の30%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>肢体不自由教育において現在は身体のケアが大切になっています。身体のケアを進める「自立活動」のあり方を知ることは必要不可欠であり、数多くの「訓練法」に関する知識や考え方の良し悪しを学ぶことが重要となります。また最近では医療的ケア (学校内で行われる簡単な医療的行為) も法的な位置づけが明確になり、数多くの都道府県で実施が進められています。今後医療的ケアについて知識や技能が必要とされてくることでしょう。特別支援学校教員を目指すみなさんに、わかりやすく幅広い内容で講義を進めていきます。</p>									
13. オフィスアワー	講義開始時間の前後									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション&肢体不自由教育について—肢体不自由教育の現状—	事前学習	教科書「第1章 肢体不自由教育の基礎的理解を読み「肢体不自由」の概念等について理解する。							
		事後学習	肢体不自由児教育に関して再確認する。							
第2回	肢体不自由児が学ぶ場について—特別支援学校を中心に—	事前学習	肢体不自由特別支援学校について理解できるようにする							
		事後学習	肢体不自由児の教育支援システムを再確認する。							
第3回	肢体不自由児の療育・福祉・相談事業—療育の場・相談の場・福祉制度など—	事前学習	肢体不自由児の学校外の支援の場を理解し、覚える。							
		事後学習	学校外の支援の場に関し再確認し、その種類等を確実に覚える。							
第4回	肢体不自由児の生理・病理1—運動発達の仕組み—	事前学習	教科書「3 肢体不自由児の生理・病理1」を読み、医学的な観点から理解できるようになる。							
		事後学習	筋肉・骨の働きとしくみについて理解できる。							
第5回	肢体不自由児の生理・病理2—脳性まひ・二分脊椎を中心に—	事前学習	教科書「4 肢体不自由児の生理・病理2」を読み、脳性まひと二分脊椎について理解できるようになる。							
		事後学習	脳性まひと二分脊椎について確実に説明・理解できる。							
第6回	肢体不自由児の心理1—発達を中心に—	事前学習	教科書「5 肢体不自由児の心理1」を読み、認知・思考の発達について理解できるようになる。							
		事後学習	肢体不自由児の認知・思考の発達について理解を定着できる。							

第7回	肢体不自由児の心理2 —障害特性を中心に—	事前学習	教科書「6 肢体不自由児の心理2」を読み、視知覚や行動特性について、理解できるようになる。
		事後学習	知覚や行動特性について、確実に理解できる。
第8回	肢体不自由教育の教育課程 —教育課程編成の基本—	事前学習	教科書「7 肢体不自由教育の教育課程」を読み、教育課程の概念を把握できるようになる。
		事後学習	肢体不自由教育の教育課程について、確実に理解できる。
第9回	肢体不自由教育の実際1 —自立活動の指導Ⅰ— (6区分中、1から3区分まで)	事前学習	教科書「8 肢体不自由教育の実際1」を読み、自立活動の概要について把握できるようにしておく。
		事後学習	自立活動の概要について、確実に理解できるようになる。
第10回	肢体不自由教育の実際2 —自立活動の指導Ⅱ— (6区分中、4から6区分まで)	事前学習	教科書「9 肢体不自由教育の実際2」を読み、自立活動の指導における「身体の動き」について把握できるようになる。
		事後学習	ポジショニングについて理解できる。
第11回	肢体不自由教育の実際3 —重複障害児の理解—	事前学習	教科書「12 肢体不自由教育の実際5」を読み、重複障害児について理解できるようになる。
		事後学習	医療的ケアについて確実に理解できる。
第12回	肢体不自由教育の実際4 —重度・重複障害児の指導—	事前学習	教科書「13 肢体不自由教育の実際6」を読み、重度・重複障害児の指導の概要について把握できる。
		事後学習	個別の指導計画の作成と指導の評価について理解できる。
第13回	肢体不自由教育の実際5 —キャリア教育と進路指導—	事前学習	教科書「14 肢体不自由教育の実際7」を読み、肢体不自由児の進路指導とは、どういうものか考えておく。
		事後学習	「個別の教育支援計画」について理解できる。
第14回	肢体不自由教育の新たな取り組み —肢体不自由特別支援学校のホームページから看取する—	事前学習	肢体不自由特別支援学校のホームページをダウンロードして、各校の取り組みを調べておく。現状の課題について自分の意見を言えるようにする。
		事後学習	肢体不自由教育の課題と改善策について授業を振り返りながら確認することができる。
第15回	肢体不自由児教育の今後の課題 —現状の課題から未来を考える—	事前学習	教科書「15 新たな取組と今後の課題」を読み、肢体不自由教育の課題を考えておく。
		事後学習	肢体不自由教育の課題について、まとめる。
期末試験			